

# 鐵 と 鋼 第二十二年 第一號

昭和十一年一月二十五日發行

## 論 說

### 神戸市及附近に於ける工業の分布状態

(日本鐵鋼協會第 15 回講演大會開會の辭に於て口述)

日本鐵鋼協會第 15 回講演大會實行委員長 小 田 切 延 壽\*

茲に供覽したる「兵庫縣下工業に關する資料摘要」は最も信頼すべき記録中より撮要したるものにして其調査期日に於て相前後するものありと雖も兵庫縣治下に在る諸種の工業殊に重工業に就て梗概を知得するには至適のものなるべし、蓋し工場所在地は三木方面を除けば多く内海に面し所謂大阪灣、瀬戸内海の舟楫に便にして且つ輸出入港として申分なき資格を備ふる幾多の港灣を基點として其附近に散在し殊に尼ヶ崎市及附近一帯の地若くは大神戸市を中間として海岸線に沿へる帶狀地域に分布せらるるを特長とするものなり、一般に地勢上奥行淺きため廣漠たる工場用地を求むること敢て容易なりとせずこれ全く中國山系によりて南北を横斷せらるるためなり、大神戸市は此點に於て最も惠まれざる地域に屬するのみならず商業の殷賑は住宅の急増を伴ひ今や工場地帯としては營業上負擔年毎に重きを加ふべく殊に疑を以て將來大工業地たる地位を問はるる舊神戸市に就ては二十年以前に吾人が有せる知識とは全然別個に考慮せらるるに至りたるや明なり、別項末尾に掲げたる工場名簿は重なる所在地を示し、諸種の工場が歴史ある創業時代より現今に至るまでの事蹟を明かにする故に重ねて茲に詳述するは徒らに煩雜を増すに過ぎざるもの如く覺ゆ。

貿易港としての神戸は統計の默示する如く今尙ほ優勢なる立脚點に在りと雖も輸入に關しては大阪港の築港完成と共に其地方工業家の需用する原料品は扇港を素通りし直ちに大阪港に入りて諸經費を節約すべく其傾向は年々歳々増進するものと思量せらる、又輸出より見るも輸入と類似の機運を醸成しつつありて注目に値するものと謂ふべし。

工場統計表は昭和 8 年々末に於ける全幅を示して餘蘊な

\*川崎造船所製鐵工場所長

し、而して神戸商工情勢は神戸市を中心に其衛星とも見做すべき附近地帯に於ける事緒を概説して工業經營の難易と邦家内外の状勢とが互に因となり果となりて如何に推移するかを詳にし、特に去る大正 10 年 7 月に發生したる勞働爭議より昭和 2 年に於ける金融恐慌に至り續いて神戸市在一大造船所の事業整理は下請工場の作業に影響し全市を通じて其波紋の及ぶところを説き盡せり、洵に神戸工業界少くとも金屬工業界の受難と動搖とは身其渦中に在らざる者よりは之を諒得すること殆んど不可能なるものありたり、昭和 5 年末以降滿洲事變の突發等は海外の經濟的事情と相應じて縣下工業の一般は他縣のそれと同様の路途を辿りて旺盛なりしが、今年に入りて稍々靜態を保ち自重しつつ強き底力を潜藏しつつ陰然として將來大に爲すあらんとしつあるものと認む。

本邦内地工業分布の趨勢表に於て其上段に全國的、下段に兵庫一縣の統計を擧げたり、大正 12 年以前の分は暫く之を省き改めて百分率を算定して表の數字を得たり、之を檢討するときは使用従業員と工場數に就て市部、郡部各々特別なる状勢を示せり、勿論市制を敷かれたる町村の編入數、地方的の事情等に依りて其數字の多少を左右せらるべしと雖ども地勢、河川の然らしむるところ天然の所印は人の力を以てしても如何ともなし能はざるものあり、今後尼ヶ崎、西の宮方面に於ける重工業の發展は此統計の平衡を全く覆へし終るべく而かも其時期は遠からざるものと思量せらる。

惟ふに重工業殊に鐵鋼業には原料品の供給、従業員の雇傭及敷地の位置等操業上幾多の重要問題あれども萬一原動力の熱源と雑用水の二者に於て自然的及人爲的の不如意の

事あれば機能の一部を減裂し延ひては全體の運用を停止しその當然の使命をも盡さしめ得ずして終るや明白なり。兵庫縣下の河川は中央山系より其源を發し四季を通じて水量の見るべきものあるは武庫、神崎の二に止まり其餘の河川にして所謂工場地帯たるべき地方を貫流するものとして擧ぐべきもの至て僅少なるは最も遺憾とす、而して電流は水力火力の二發電法に依り供給せられ目下其量は不足せざるものと認む、尼崎市勢要覽及同商工名鑑を通讀して同市の一般は重工業的に他市郡と異なるところあるを知れり大勢の趨くところ工業上熱と水との缺くべからざることを一層痛切に感得することを得べし、遮莫東に大阪港あり西に神戸港あり中間に尼ヶ崎築港ありて輸出輸入に事缺くことなく西の宮の一港又た有利に用いらるべく、之に加ふるに神戸市を貫き扇港沿岸に海陸の敷設宜しきを得て交通運輸最も整ひたる此海面は陸地と共に如何に工業の將來に貢献するや現今より過去 20 年前を顧み更に將來の 20 年を想察するとき、邦家内外事情の變遷と共に成年期に達すべしと想はるべき今後の工業状態を容易に達觀すること能はず只眼光千秋を射る偉人のみ之を豫言しうるものなるべし。

## 兵庫縣下工業に関する資料摘要

### 凡 例

1. 此資料は昭和 10 年 10 月神戸市に於て開催する日本鐵鋼協會秋期大會へ出席せらるゝ會員の便覽とするため蒐集したるものにして主として鐵鋼業者若くは之に關係ある重工業の範圍に於て取捨したり。

2. 文献の出處は記事を改むる毎に之を示し掲題下の年月は原本の印刷若くは内容調査の時日なり。

3. 此資料を採録するに當り幾多至重なる記録を供給せられたる大方の御厚意を茲に深謝す。

昭和 10 年 9 月末日 株式會社川崎造船所 製鐵工場

### I. 兵庫縣治一斑 第 34 回 昭和 10 年 1 月刊行

**地 勢** 淡路一國は別に島嶼を成せるも其の他は中國山系に横斷せられ中央は高く南北は低し。北部丹波但馬は頗る川嶽に富むも、南半攝津播磨は概して平坦にして、田畑多く丘陵の山野起伏せり。海岸線の延長百餘里にして日本海は風濤怒激岬礁雜出して良港に乏しと雖、内海は波浪靜穩にして良港多し。

**地 質** 本縣の地質は次の岩層より成る。

火成岩、花崗岩、石英閃綠石、石英粗面岩、玄武岩、蛇紋岩、水成岩、太古層、古生層、中生層、第三紀層、第四紀層

火成岩中花崗岩は六甲山より淡路の北半に發達し、安山岩及石英粗面岩等は攝津、播磨の中央部より但馬の南部に

分布せり、水成岩の太古層は淡路國沼島に限られ、秩父古生層は丹波、播磨の中央部及南但に介在し、中生層は淡路の南部及丹波篠山附近に分布し、播磨の東部には第三紀層の大區域あり。

土性は概して壤土を雜へ、地味膏腴ならざるも五穀は能く豐熟す。

**山 嶽** 山嶽の大なるものは攝津に摩耶、六甲、長尾、大船あり、播磨に書寫、雪彦、笠形、七種、日名倉、黒尾、船越の諸山あり、但馬には本縣第一の高山水の山ありて海拔 1,500m に及び其の他鉢伏、妙見、床尾、須留ヶ峯、粟鹿等概して高山多く、丹波には三國、彌十郎、淡路には先山諭鶴羽の諸山あり、比較的造林に適する所多し。

**河 川** 河川は多く源を中央山脈中に發す、南流するのは神崎、武庫、加古、市、夢前、揖保、千種の諸川とし北流して日本海に入るものを圓山、竹野、佐津、矢田、岸田の數川とす。其の幹線十里以上に及ぶもの 7、舟楫の便あるものは神崎、加古、揖保、圓山等に過ぎず。

**氣 候** 但馬、丹波、北播地方は稍寒冷なるも雨雪多きにより植物生育状態一般に良好にして平均温度攝氏 14 度平均降雨量 1,200mm 乃至 2,000mm 以上に達し、養蠶業、林業等に適す。之に反し南部は概して溫暖にして北部に比し平均 1 度餘高きも降雨量は却つて少く土地比較的乾燥し米麥、果樹の栽培に適し樹木の如きも松樹の繁殖多し。

**交 通** 交通機關は産業の發展と相俟ちて逐年發達の傾向に在り。道路及鐵道の主たるものは國道 5 線 335 km、縣道 453 線、3,887 km、國有鐵道 12 線、460 餘 km、地方鐵道 12 線、245 km、電氣軌道 5 線、210 km となり。國道は東京を發し西鹿兒島、鳥取及徳島に至るもの、京都より岐れて山口に達するもの等縣下の各要地を經由し、其の間を補ふに數多の縣道を以てせるが故に北但の一部分を除けば交通状態は極めて良好なり。汽車は國有、地方等南北沿岸を走り或は之を聯接せしめ尙南沿岸地方には電車の發達著しく各々交通に資せり。

**名 邑** 神戸市は本縣に於ける政治、經濟、交通の中心たるのみならず我が國第一の貿易港にして、百貨の聚散殷盛を極め、近時又生絲其の他の輸出を以て世界市場に飛躍するに至れり。神戸市に亞ぐものに姫路、尼崎、明石、西宮の各市、洲本、飾磨、伊丹、高砂、豐岡、加古川、三木由良、福良、龍野、赤穂、篠山、出石の各町とす。姫路は播磨第一の都會にして尼崎は新進の工業都市なり。西宮、伊

丹は古來良醇を以て聞え、三木は双物、龍野は醬油及素麵、赤穂は鹽の名産地なり。其の他有馬、城崎、湯村、寶塚、武田尾は温泉を以て其の名高く、須磨、舞子、明石、高砂、赤穂御崎は風光の明媚を以て稱せらる。

物産 物産の重なるものは米、麥、綿糸、綿織物、清酒、精糖、護謨製品、麥粉、繭、生絲、肥料、毛絲、燐寸、麥酒、紙、素麵、樟腦、植物油、鹽、畜牛、木材、薪炭、双物、皮革、杞柳製品等なり。

II. 工場統計表 昭和8年兵庫縣總務部統計課

概要

工場數 昭和8年末現在に於ける工場數は 4,002 にして前年に比すれば 28 の増加なり。今過去 10 ケ年間の趨勢を觀るに、昭和8年を先づ調査範圍が著しく局限せられたる大正 12 年に比較すれば 1,125(28%)の激増なり。蓋し大正 12 年より昭和4年迄の調査範圍は職工を常時 5 人以上を使用する工場なりしに對し昭和4年に至つて常時 5 人以上の職工を使用し又は使用する設備を有する工場と調査規則が改正せられ著しく範圍を擴大せしめたるに因るものにして實質的增加は判明し難し。昭和8年を同一調査範圍に屬する昭和4年に比すれば實に 341 工場を増加せり之を以て觀るも過去 10 ケ年間の趨勢は全體の累年比較に於ては之を明にするを得ざるも各段階に付之を觀る時、殊に同一調査範圍の間に於ては何れも逐年増加の傾向を示し累年的に漸増の趨勢を辿りつゝあるを察知し得べし。

次に昭和8年に於ける工場を使用職工數別に觀るに 5 人以上 10 人未満のもの最も多く總數の約半數を占め、之に次ぐは 15 人以上 30 人未満のものにして 670 を算す。而して 1,000 人以上の工場は 25 にして前年より 3 を増加し最も少なきは 500 人以上 1,000 人未満のものにして 18 なり。之を主要事業別に概觀すれば最多は食糧品工業にして 1,224 を算し總數の 30% を占め、就中醸造業は 637 にして食糧品工業の半數を占む。之に次ぐは紡織工業にして 748(19%) を算し、織物業最も多く 415 に達す其の他の工業(499)機械器具工業(388)、化學工業(369)等之に亞ぎ、瓦斯及電氣業は 21 にして最少なり。

次に之を郡市別に觀るに、神戸市は 828 にして總數の 21% に當り、多可郡は 548 にして之に亞ぎ武庫郡(280)西宮市(243)、飾磨郡(198)等の順序なり。最少は佐用、美方の兩郡にして何れも 13 なり。

職工數 昭和8年末現在に於ける職工數は總數 151,650

人にして一工場當り 38 人なり。之れを前年に比すれば 17,529 人(12%)の激増なり。蓋し工場數の増加に起因せるものと見るを得べし。この内男工は 89,710 人にして總數の 59% に當り女工は 61,940 人(41%)にして共に前年より増加す。之れを年齢別に觀るに大部分は 16 歳以上 50 歳未満の壯年工にして 133,862 人を算し總數の 88% を占む。16 歳未満の者は 14,793 人(10%)、50 歳以上の者は 2,995 人(2%) なり。之れを郡市別に觀るに神戸市は 54,836 人にして總數の 36% に當り、川邊郡は 13,363 人にして之に亞ぎ武庫郡(9,445 人)、姫路市(8,676 人)、加古郡(6,921 人)等の順序にして最少は美方郡の 77 人なり。

昭和8年末現在の職工數を主要事業別に觀察すれば紡織工業最も多く 52,906 人にして前年より 6,668 人を増加し總數の 35% を占む。

而して紡織工業にありては大部分女工にして 41,495 人を算し男工は僅に 11,411 人に過ぎず之に亞ぐは機械器具工業にして 26,647 人(18%) なり。其の他化學工業(18,507 人)、食料品工業(16,940 人)、其の他の工業(14,760 人)等の順序にして、瓦斯及電氣業(724 人)が最少なり。

生産額 昭和8年に於ける生産額は 801,894,061 圓にして前年に比すれば 22% の激増にして曾て見ざる莫大なる額を示せり。之れを過去 10 ケ年間の趨勢と比較するに、先づ大正 12 年即ち調査範圍が「常時 5 人以上の職工を使用する工場」に限定せられ現在の調査範圍「常時 5 人以上の職工を使用し又は使用する設備を有する工場」よりやや縮小せられたる年に比較すれば 24% の増加なり。又現在の調査範圍に改正せられたる昭和4年に比較するに 0.8% を、過去 10 ケ年間に於ける最少額年たる昭和6年に比すれば實に 29% の各激増を示せり。蓋し本年に於ける工業界は時局を反映して軍需工業の殷盛を招來し、金屬工業

	(昭和7年)	(昭和8年)	(増△印減)	
紡織工業	147,072,837	197,566,199	50,493,362	26%
金屬工業	81,088,607	126,655,672	45,567,065	36
機械器具工業	59,448,785	84,964,524	25,515,739	30
窯業	9,987,407	14,032,484	4,045,077	29
化學工業	107,085,738	139,756,746	32,671,008	23
製材及木製品工業	11,784,692	11,732,422	△ 52,270	0.4
印刷及製本業	4,124,071	3,545,700	△ 578,371	16
食料品工業	142,565,344	152,913,296	10,347,952	7
瓦斯及電氣業	22,318,019	22,439,121	△ 878,898	4
其の他の工業	22,839,445	29,148,541	6,309,096	21
加工賃及修理料	12,558,526	18,139,356	5,580,830	30
計	622,872,471	801,894,061	179,020,590	22

(126,655,672 圓)機械器具工業(84,964,524 圓)等の重

工業に於て前年に比し 30% 以上の躍増を示したり。之れを工業別に前年と對比すれば前掲表の如し。

即ち昭和 8 年の生産額中最も多きは紡織工業にして總額の 25% を占む。而して 1 億圓以上のものはこの他食料品工業、化學工業、金屬工業なり。大部分は前年に比し著しき激増を示し、只製材及木製品工業、印刷及製本業、瓦斯及電氣業に於て僅少の減額を來せるのみ。加工賃及修理料は總額 18,139,356 圓にして主要事業別に觀れば機械器具工業が最も多く 9,465,014 圓にして總額の 1/2 以上を占め、之れに亞ぐは紡織工業にして 7,322,437 圓を示し、この大半は絲布染色なり。加工賃及修理料を前年に比すれば總額に於て 30% の激増にして、就中機械器具工業に於て著大なる増加を示せり。

次に昭和 8 年の總生産額を地域別に概觀するに神戸市(314,271,528 圓)が首位を占め、總額の 39% に當る。これに亞ぐは川邊郡(79,378,615 圓)、尼崎市(70,657,938 圓)、武庫郡(68,559,436 圓)、西宮市(42,587,999 圓)等にして、佐用郡(419,069 圓)が最少なり。各工業に付地域別に觀れば、紡織工業に於ては川邊郡(37,702,304 圓)が最も盛にして、姫路市、加古郡、神戸市、印南郡等之れに次ぐ。金屬、機械器具工業等の重工業にありては、神戸市斷然他を壓し、尼崎市、武庫郡等の順序なり。

食糧品工業に於ても、神戸市(54,390,452 圓)筆頭なるも武庫郡、西宮市等の躍進目覺しく殊に清酒醸造は兩地とも神戸市を凌駕し斷然頭角を表す。

**原料及材料總使用額** 昭和 8 年に於ける原料及材料總使用額は 463,357,916 圓にして前年に比すれば 115,462,709 圓(25%) の激増なり。而して之れを生産總額に比すれば、58% に當る。之れを主要事業別に觀るに、紡織工業は最多にして 153,998,235 圓、總額の 33% なり。

而して之に次ぐものは化學工業にして 104,374,177 圓を使用し、食糧品工業は 75,651,281 圓、金屬、機械器具

材料使用額を生産額に對比すれば示表の如し。

次に之れを郡市別に觀るに、神戸市は 180,674,698 圓(總額の 39%) を使用して首位を占め、川邊郡(39,813,275 圓)、武庫郡(35,899,280 圓)、姫路市(31,124,957 圓)、尼崎市(30,981,240 圓)等之れに亞ぎ、美方郡(44,669 圓)が最少額なり。

**労働時間及賃銀** 昭和 8 年に於ける労働延時間總數は 420,821,635 時間にして前年に比すれば 64,373,702 時間(15%) の増加なり。而して賃銀支拂總額は 68,550,394 圓にして前年より(10%) を増加し、1 時間當賃銀は前年より 1 錢を減じて 16 錢なり。之れを主要事業別に觀れば労働時間の最高は紡織工業にして 143,580,385 時間を示し總労働時間の 34% を占む。機械器具工業(85,491,811 時間)、化學工業(50,944,353 時間)、金屬工業(49,203,945 時間)等之に亞ぐ。賃銀支拂總額の最高は機械器具工業にして 20,042,245 圓を示し總額の 29% に當り、之に亞ぐは紡織工業にして 16,025,000 圓なり。最少は瓦斯及電氣事業にして 64,129 圓なり。1 時間當賃銀の最高は瓦斯及電氣事業にして 26 錢を示し前年の最高(金屬工業 31 錢)より著しく下落せり。之れに亞ぐは機械器具工業(23 錢)金屬工業(22 錢)等にして最低は紡織工業及其他の工業の各 11 錢なり。

これを郡市別に觀るに労働時間に於ては神戸市(173,473,427 時間)が最高にして總時間の 41% を占め、川邊郡(34,084,839 時間)、武庫郡(21,839,253 時間)、飾磨郡(20,824,605 時間)姫路市(20,464,289 時間)等之に亞ぐ賃銀支拂總額に於ても、神戸市(36,277,619 圓)が最高にして總額の約 50% に當る。川邊郡(5,103,475 圓)、武庫郡(3,580,494 圓)、尼崎市(3,391,848 圓)等之に亞ぎ最少は佐用郡の 26,208 圓なり。1 時間當賃銀の最高は神戸市と加古郡にして共に 21 錢なり、前年の最高尼崎市は本年は第 2 位にして 18 錢を示し最低は城崎郡の 5 錢なり。

**燃料及動力總使用額** 昭和 8 年に於ける燃料の中その大宗たる石炭の使用量は 1,373,028,564 kg、この價格 15,341,990 圓なり。これを前年に比すれば數量に於ては 155,255,712 kg (11%)、價額に於ては 4,753,057 圓(31%) の各激増を見たり。これを主要事業別に觀るに石炭使用の筆頭は瓦斯及電氣事業にして 418,690,380 kg (總量の 30%) を示し、この大部分は電氣事業に於て使用する。これに次ぐは金屬工業にして 324,013,539 kg (23%) を使用

	(原料及材 料使用額)	(生産額)	(生産に對 する割合)
紡織工業	153,998,236	204,888,636	75
金屬工業	64,235,766	126,836,869	51
機械器具工業	31,621,130	94,429,539	33
窯業	4,291,672	14,032,484	30
化學工業	104,374,177	140,093,311	75
製材及木製品工業	8,463,219	11,777,098	72
印刷及製本業	1,969,674	3,633,675	54
食料品工業	75,651,281	154,039,391	49
瓦斯及電氣業	855,031	22,439,121	4
其の他の工業	17,897,730	29,723,937	60
計	463,357,916	801,894,061	58

工業等に於ても莫大なる使用額を示す。主要事業別に原料

す、この他化学工業(197,913,367 kg)、紡織工業(180,041,863 kg)等の順序なり。而して之れを郡市別に付観るに、神戸市は最高にして528,922,572 kg、この価格5,758,225 圓にして共に總數の約1/3を占む、これに亞ぐものは尼崎市(336,331,821 kg)、川邊郡(73,856,425 kg)西宮市(68,391,046 kg)等にして最少は美方郡の15,200 kgなり。次にコークスの使用量は62,719,669 kg、この價額1,478,955 圓にして前年迄は年々漸減歩調にありしも、本年に至り著しき躍進を見たり、之れを前年に比すれば數量に於て15,775,729 kg (25%)、價額に於ては690,955 圓(47%)の各激増を來せり。石油(重油、輕油揮發油を含む)の使用量は244,671 桶にして前年に比すれば23%の減少を見たるも昭和6年以前に比すれば尙著しき増加にして近年に於ける機關のディーゼル化傾向を物語るものなり。而してこの價額は1,068,527 圓にして前年に比すれば36%の増加にして數量とは逆の現象を招來せり、薪の使用額は255,608 圓にして前年より10%の増加を示せり。昭和8年に於ける木炭の使用量は4,766,776 kgにしてこれが價額は232,687 圓なり。これを前年に比すれば數量に於て僅に減少せるも價額に於ては14%の増加なり。

次に瓦斯は總使用量625,937,244 m<sup>3</sup>にして、この内大部分は自家發生のものにして總量の99%を占む、前年に比すれば7%の増加なり。電力は總量544,320,230 k.w.hにして、この内他より供給を受くるものは93%を占め、自家發生のものは僅に7%に過ぎず、前年に比し總使用量に於て12%を増加したるも自家發生は30%の激増を示せり。電力使用を郡市別に概観するに神戸市は自家發生及他より供給のものを合せて227,076,042 k.w.hを使用し斷然頭角を表す。これに次ぐは川邊郡(25,114,645 k.w.h)、尼崎市(50,240,549 k.w.h)加古郡(37,604,930 k.w.h)等なり。

III. 主要工業概況調査

自昭和8年7月至昭和9年6月 兵庫縣經濟部商工課 例 言

1. 本調査は自昭和8年7月至昭和9年6月、1ヶ年間の管下主要工業の概況を調査せるものなり。
1. 本調査に於て前期とあるは自昭和7年7月至昭和8年6月期間を指し本期とあるは自昭和8年7月至昭和9年6月期間を指すものとす。
1. 前期生産額が前年刊行のものと異なるものあるは誤謬を訂正したるによる。

A. 原 動 機

1. 生産概況 本期に於ける生産額及前期との比較を示せば次の如し、

品種別	本期			前期	前期との比較増減(△印は減)
	前年下半期	本年上半期	計		
	價 額	價 額	價 額	價 額	價 額
原動機	2,425,655	2,305,590	4,731,245	4,729,970	1,275

即ち本期に於ける生産額4,731,000 餘圓にして前期に比し大差なし。

船舶海運界の好況に依りディーゼル機關及燒玉式重油機關等の製作増加せり。前期は小馬力の注文多く本期は大馬力のもの多し。これは工場の全能力に依りたるものなり。

2. 採算の概況 製品は前期に比し約2割高値、諸材料も約2割高にして工賃は一般に於て變動なし。

材料高の割合に製品賣値高騰せざるも現状の如き需要増加せば大體に於て好況なり。

3. 生産品の需要及販賣に關する概況 一般に需要に對し製品は追はれ勝なり、從來に比し海運界好況に伴ひ同方面よりの注文増加せり。

爲替安の關係上外國品との競争は問題にならず、他府縣產品との競争多少あれどもディーゼル機關の製作に於ては絶えず他府縣の製品を壓しつゝあり。取引は需要者と直接取引をなす。

4. 勞力需給並原料、材料、燃料、動力取得の概況 大工場に於ては原動機に就てのみの職工數不明なるも本期の職工數約1,900人内外にして前期に比し約50人の増加。

5. 經營上、技術上改良せられたる事項 特記すべきものなし。

品 種 別	本期						前期		前期との比較増減(△印は減)	
	前年下半期		本年上半期		計		數量	價 額	數量	價 額
	數量	價 額	數量	價 額	數量	價 額				
機 關 車	27	1,181,100	33	1,899,220	60	3,080,320	38	1,883,342	22	1,196,978
電 車	9	80,758	8	62,970	17	143,728	27	84,080	△10	59,648
貨 車	82	244,665	50	130,910	132	375,575	157	292,410	△25	83,165
客 車	12	257,530	31	582,449	43	839,979	46	603,420	△3	236,937
ガ ソ リ ン 車	7	82,150	11	51,765	18	133,915	1	25,200	17	108,715
計	137	1,846,203	133	2,727,314	270	4,573,517	269	2,888,952	1	1,685,443

## B. 鐵道用車輛

1. 生産概況 本期に於ける生産額及前期との比較を示せば前表

の如し。

即ち數量に於て1輛増加せるに比し生産額 1,680,000 餘圓の増加せるは圓安と海外物價高に基く輸入品代用並に輸出品工業の繁昌に依る。設備増加、非常時財政に基く政府の購買力發揮等に因る。これは工場能力の殆ど全能力操業によりたるものなり。

2. 採算の概況 材料取得難、時間外就業等により生産費増加の傾向あり。數年來の不況も近時緩和されたる感あるも同業者間の競争は激烈にして利益率少く専ら生産費の遞減に腐心しつつあり。

3. 生産品の需要及販賣に關する概況 民間鐵道會社に於ては車輛の注文未だ少く鐵道省のみ舊態を存せり。最近滿鐵よりの注文は漸次増加の傾向にあり。「バス」の需要は相當増加せり。

4. 勞力需給並原料、材料、燃料、動力取得の概況 職工數は前期に比し約3割の増加を示せり。

5. 經營上、技術上改良せられたる事項 特記すべきものなし。

## C. 自動車

本期に於ける生産額及前期との比較を示せば次し如し。

品 種 別	本期						前期		前期との比較 増減(△印は減)	
	前年下半期		本年上半期		計		數量 臺	價 額 円	數量 臺	價 額 円
自 動 車	152	395,604	140	786,603	292	1,182,207				

この表に示す如く本期生産數量 292、生産額 1,182,000 餘圓にして前期に比すれば數量 160、價額 771,000 餘圓の増加なり、之は販賣價額を廉價にして、自動車々臺を改良し、尙運輸事業の盛況となりたるに因る。

以上は工場能力の殆んど全能力によるものなり、車室の寸法、使用材料により1室の市價なし。前期と變動なし。原料一部に於て高價となりたるも多量製産により損失を償ひ得。前期より少々利益率良し。其他特記すべきものなし。

## D. 自動自轉車

本期に於ける生産額及前期との比較を示せば次の如し。

品 種 別	本期						前期		前期との比較 増減(△印は減)	
	前年下半期		本年上半期		計		價 額 円	價 額 円	價 額 円	價 額 円
自動自轉車	1,087,891		509,424		1,597,315					

即ち本期生産額 1,597,000 餘圓にして前期に比し 989,000 餘圓の増産を見たり。これは一般需要の増加並能率増進に依るものにして工場能力の約8割操業によりたるものなり。

主として受註生産を行ひ原料費の騰貴に伴ひ市價多少騰貴せり。職工數 60 名にして前期に比し 10 名の増加なり其の他特記すべきものなし。

## E. 船 舶 (鐵製のもの)

1. 生産概況 本期に於ける生産額及前期との比較を示せば次の如し。

品 種 別	本期						前期		前期との比較 増減(▲印は減)	
	前年下半期		本年上半期		計		數量 隻	價 額 円	數量 隻	價 額 円
新造船	25	10,421,587	21	6,744,753	46	17,166,340				
修 繕	—	2,178,560	—	1,410,597	—	3,589,157	—	4,526,790	—	▲ 937,633
計		12,600,147		8,155,350		20,755,497		11,839,516		8,915,981

即ち新造船に於て前期に比し 66 隻減少せるも價額に於て 9,850,000 圓餘の増加を見たるは主として大型艦船の輻輳せるに依る。修繕船は減少し約 930,000 餘圓の減少なれ共總計に於て 8,910,000 餘圓の増額を見たり。これは工場能力の約9割を操業して得たるものなり。増加の主たる原因としては圓安と海外物價高に基く輸入品代用並輸

出工業の繁昌に因る。設備増加、非常時財政に基く政府の購買力發揮船舶助成法に基く新造船工事の繁忙なり。尙優秀大型船の製造計

畫着々其の實行の機運に向ひつつあり。

2. 採算の概況 生産品市價は前期に比し若干の昂騰を示せり。主要生産費たる原料、材料は依然として昂騰を示し又工賃昂騰せり。此状態に依り各工場とも前期に比し非常に活況を呈し競争も餘程緩和され採算上有利なりしは事實なれ共特殊工業以外の諸會社殊に船會社の船舶の如きは競争激甚にして採算の見込困難なり。

3. 生産品の需要及販賣に關する概況 受註製作により採算に過不足なし、外國品に對して爲替關係により競争上幾分有利なり。販賣取引系統としては原則として需要者と

直接取引なり。

4. 勞力需要並原料、材料、燃料、動力取得の概況 本期職工數約 13,600 人、前期に比し 2,856 人の増加を見た。此は非常時局持續により注文益々増加し來りたるにより臨時工、見習工及養成工を入業せしめたるによる。原料材料、燃料等は前記生産高の増加に伴ひ其需要非常に増加す。

5. 經營上、技術上改良せられたる事項

1. 三菱重工業株式會社としては本年 6 月 12 日三菱航空機株式會社を合併せり。

2. 川崎造船所に於ては實驗研究部を新設し製造能率の増進を計りつつあり。尙電氣銲接技術の如きは益々其進歩の見るべきものあり。

3. 其の外特記すべきものなし。

### F. 發電機

1. 生産概況 本期に於ける生産額及前期との比較を示せば次の如し。

品 種 別	本期						前期との比較 増減(△印は減)			
	前年下半期		本年上半期		計			前期		
	數量 臺	價 額 円	數量 臺	價 額 円	數量 臺	價 額 円		數量 臺	價 額 円	
發 電 氣	62	704,220	41	667,000	103	1,371,220	167	706,290	△ 64	664,930

即ち本期生産數量 103 臺、生産額 1,371,000 圓餘にし 如し。

て前期に比し數量に於て 64 臺減少し價額に於て 644,000 餘圓の増加を示せり。

此は軍需工業の盛況並一般活況

に因り材料費の騰貴に依り原價割高となれり。

採算の概況に付ては市價の騰貴と受註増加により好調を辿りたり。目下の處受註、生産共中庸を保てり販賣系統は工場、船會社等の注文に應じ尙三菱電機株式會社を通じて販賣さる。其他特記すべきものなし。

### G. 電 動 機

1. 生産概況 本期に於ける生産額及前期との比較を示せば次の如し。

品 種 別	本期						前期との比較 増減(△印は減)			
	前年下半期		本年上半期		計			前期		
	數量 臺	價 額 円	數量 臺	價 額 円	數量 臺	價 額 円		數量 臺	價 額 円	
電 動 機	328	1,206,000	477	1,108,000	805	2,314,000	367	1,392,299	438	921,701

即ち本期に於ける生産數量 805 臺、價額 2,314,000 圓にして前期に比し數量に於て 438 臺、價額に於て 921,000

餘圓の増加を示せり。此は一般工業の活況、軍需品の受注の増加に因るものなり、工場能力の 80% より 100% の操業なり。

2. 採算の概況 材料の騰貴並勞銀支拂増加等に依り總括的に原價割高となれり、材料費は前期に比し 13% の増加を示せり。

工賃には變動なく採算は概して好調を辿りたり。

3. 生産額の需要及販賣に關する概況 前期に比し軍需品及滿洲國向のもの若干増加し其の他大いなる變動なし。販賣系統は同資本系統たる三菱商事株式會社に於て一手販賣をなせり。(本品種の生産の殆んど全部は三菱電機株式會社神戸製作所の製品による)

4. 勞力需給並原料、材料、燃料、動力取得の概況 本期職工數は變壓器、電動機、發電機合し 1,330 人にして前期に比し 350 人の増加にして之は生産高の増加に依るものなり。

5. 經營上、技術上改良せられたる事項 特記すべきものなし。

### H. 變 壓 器

1. 生産概況 本期に於ける生産額及前期との比較を示せば次の

品 種 別	本期						前期との比較 増減(△印は減)			
	前年下半期		本年上半期		計			前期		
	數量 臺	價 額 円	數量 臺	價 額 円	數量 臺	價 額 円		數量 臺	價 額 円	
變 壓 器	125	644,000	142	931,000	267	1,575,000	214	1,128,000	53	347,000

即ち本期に於ける生産數量 267 臺、生産額 1,575,000 圓にして前期に比し數量に於て 53 臺價額に於て 347,000 圓の増加を示せり。

此は前期に引續き軍需關係の受注と一般工業界の活況に因るものにして工場能力の 9 割操業なり。

2. 採算の概況 材料の騰貴、勞銀支拂高の増加等は總括的に原價割高となれり。材料は前期に比し 11 乃至 13% の増加を示せり。概して採算の狀況良好なり。

3. 生産品の需要及販賣に關する概況 目下の處受注、生産共中庸を保てり、從前に比し軍需品及滿洲國向のもの若干増加せり。

三菱商事株式會社を通じて販賣さる。

4. 動力需給並原料、材料、燃料、動力取得の概況 本

期職工數に就きては變壓器の外、電動機、發電機等の各職工合して 1,330 人にして前期に比し 350 人増加せり。

5. 經營上、技術上改良せられたる事項 特記すべきものなし。

**I. 鐵 鋼 材**

1. 生産概況 本期に於ける生産額及前期との比較を示せば次の如し。

品種別	本 期						前 期		前期との比較増減 (△印は減)	
	前年下半期		本年上半期		計		數量	價額	數量	價額
	數量	價額	數量	價額	數量	價額				
鋼塊	40,620,135	11,499,992	44,316,763	13,133,430	84,936,898	24,633,422	74,247,679	17,045,810	10,689,219	7,587,612
鐵管	55,156,602	23,656,238	59,299,007	26,427,702	24,455,609	50,083,940	—	29,790,608	—	20,293,332
鋼線	7,768,543	6,832,229	9,364,545	7,480,708	17,132,088	14,312,937	—	11,952,656	—	2,360,281
釘類	—	10,655,329	—	13,726,663	—	24,381,992	—	13,699,626	—	10,682,366
其他	—	2,297,988	—	2,482,983	—	4,780,971	—	3,691,846	—	1,089,125
計	—	5,632,855	—	7,490,613	—	13,123,468	—	20,725,135	—	△7,601,667
	—	60,574,631	—	70,742,096	—	131,316,730	—	96,905,681	—	34,411,049

即ち本期生産額 131,310,000 圓餘に比し 34,410,000 萬圓餘の増加を示せり。

此は軍需品増加の間接的影響及一般需要の増加に依る、價額の前期に比し一般に騰貴せるは主要材料價格の騰貴に基くものなり。操業率は工場能力の約 8 割なり。

2. 採算の概況 一般原料、材料の値上りに依り製品市價の昂騰と非常時局による軍需工業其の他一般工業の激繁の爲め各工場とも前期に比し非常に活況を呈し競争も餘程緩和され採算上有利なりしもの如し。

3. 生産品の需要及販賣に關する概況 需要旺盛にして生産不足の感あり厚鉄、薄鉄共に海外値段は内地相場より遙に高値なりしたため其の競争なし。又他府縣產品との競争により特別苦痛を感じたるが如きことなし。漸次代理店及商店或は種別的に夫々共販組合聯合會等を通じて販賣せしむ。

4. 勞力需給並原料、材料、動力取得の概況 本期に於ける職工數約 23,000 人(造船職工をも含む)なり。注文増加による臨時工、見習工、養成工を入業せしめしに依る。

5. 經營上、技術上改良せられたる事項 實驗研究部等を設け製造能率の増進を計りつつあり。

**J. 銅 材**

1. 生産概況 本期に於ける生産額及前期との比較を示せば別記示表の如し。

即ち本期間に於ける生産額 164,000 餘圓、銅棒は受注減少のため減産せり。工場能力の約 7 割を操業せり。

2. 採算の概況  
イ、米國インフレーション政策の影響及需給關係により市價昂騰したるも 1 年を通

じて見れば次の如し。

(品種別)	(單位)	(本期)	(前期)	(比較%)
銅 管	100 kg	111.61	98.15	113.7%
銅 棒	同	104.26	88.80	117.4%
銅 板	1 t	204.00	178.00	115.0%

ロ、主要原料たる電氣銅は米國インフレーション政策の影響を受けて昂騰せり。尙工賃も幾分増加せり。

ハ、原料割高のため前期と大差なかりしも昭和 9 年 6 月獨逸政府に銅及真鍮製品の輸出禁止をなしたるため印度及南洋方面へ邦品の輸出増加したるを以て今後に於ける採算は幾分有利の見込なり。

3. 生産品の需給及販賣に關する概況

イ、現下の需給狀況より見れば生産不足の状態なり。外國品との競争はなきも他府縣同業者との競争は相當激し。

ロ、製品の大半は問屋を経て其の他は直接需要家に至る販賣上の共同施設なし。

4. 勞力需給並原料、材料、燃料、動力取得の概況 本期に於ける職工數は男工女工合して 706 人にして工場及

機械増設並海外輸出の増加に伴ひ増産を行ふため増員せり。

5. 經營上、技術上改良せられたる事項 特記すべきものなし。

**K. 鑄 物**

1. 生産概況 本期に

品 種 別	製 産 概 況						前 期	前期との比較増減 (△印は減)		
	本 期		前 期		計				數量	價額
	前年下半期	本年上半期	數量	價額	數量	價額				
銅 管	44,909 <sup>kg</sup>	48,986	64,338 <sup>kg</sup>	67,614	109,247	116,800	91,744	90,049	17,503	26,553
銅 棒	22,245	20,956	23,224	22,223	45,469	42,179	65,494	58,158	△20,025	△14,979
銅 板	12,300	2,654	12,100	2,323	24,400	4,977	22,300	3,974	2,100	1,003
計	—	72,596	—	92,160	—	164,756	—	152,179	—	12,577

(前期報告に於て銅線の部に亜鉛引鐵線、ワイヤロープ等を合算せるも此は鐵鋼材の部に入るべき誤りに付訂正す)



於ける生産額及前期との比較を示せば次の如し。

米國インフレーション政策の影響及需給関係により市價

品 種 別	本 期			前 期 價 額 円	前期との比較増減 (△印は減) 價 額 円
	前年下半期	本年上半期	計		
	價 額 円	價 額 円	價 額 円		
鑄物製品	3,858,005	3,792,818	7,650,823	3,591,995	4,052,828

昂騰したるも1ヶ年を通じて見れば此表の通りとす。眞鍮屑昂騰のため工賃も幾分増加せり。昭和

即ち本期に於ける生産額 7,650,000 圓にして前記に比し 4,050,000 圓餘の増加を示せり。此は軍需工業の旺盛、販路擴張、生産能力擴大等に因る増産にして工場能力の約 9 割操業に依りて得たるものなり。

9 年 6 月ドイツ國政府に於て銅及眞鍮製品の輸出禁止をなしたるため印度及南米方面へ邦品の輸出増加したるを以て今後に於て採算有利の見込なり。

2. 採算の概況 一般鑄物製品は材料約 2 割方騰貴に依り市價も騰貴せり。燃料 1 割、銑鐵 7 分其の他一般的に高騰し工賃には變動なし。大體に於て前期に比し良好なる成績を挙げたり。

3. 生産品の需要及販賣に関する概況 現下の需給状況より見れば生産不足の状態なり、外國品との競争はなきも他府縣同業者との競争相當激甚なり。製品の大半は問屋を経て其の他は直接需要家に至る。

3. 生産品の需要及販賣に関する概況 目下生産不足の感あり、一般機械鑄物の需要増加、事業の擴張、新會社の設立に依り需要者の増加せるものの如し。他府縣產品との競争激しく取引系統は直接製造會社、金物問屋等に至る。

4. 勞力需給並原料、材料、動力取得の概況 本期職工數は 172 人にして前期に比し 82 人の増加なり。

4. 勞力需給並原料、燃料、材料、動力取得の概況 職工數約 1,300 人にして前記に比し約 100 人の増加なり。

5. 經營上、技術上改良せられたる事項 尼崎伸銅株式會社は昭和 9 年 4 月 1 日古河電氣工業株式會社と合併し古河電氣工業株式會社尼崎伸銅所と改稱せり。

5. 經營上、技術上改良せられたる事項 特記すべきものなし。

M. 罐 類

L. 眞 鍮 材

1. 生産概況 本期に於ける生産額及前期との比較を示せば次の如し。

品 種 別	本 期			前 期 價 額 円	前期との比較増減 (△印は減) 價 額 円
	前年下半期	本年上半期	計		
	價 額 円	價 額 円	價 額 円		
罐 類	355,271	252,179	608,450	736,424	△127,974

即ち本期に於ける生産額 608,000 餘圓にして之れを前期に比すれば約

128,000 圓の減産を示せり。

此は石油罐に於て減少を見たる爲にして製氷

品 種 別	本 期						前 期		前期との比較増減 (△印は減)	
	前年下半期		本年上半期		計		數 量 kg	價 額 円	數 量 kg	價 額 円
	數 量 kg	價 額 円	數 量 kg	價 額 円	數 量 kg	價 額 円				
眞鍮管	4,849	5,667	1,153	1,309	6,002	6,976	6,491	6,266	△ 489	710
眞鍮棒	1,280,976	859,781	1,204,743	768,581	2,485,719	1,628,362	2,644,792	1,603,272	△ 159,073	25,090
計	1,285,825	865,448	1,205,896	769,890	2,491,721	1,635,338	2,651,283	1,609,538	△ 159,562	25,800

即ち本期に於ける生産數量 2,491,000 kg、餘生産額 1,635,000 餘圓にして前期に比し數量に於て 159,000 kg 餘の減少、價格に於て 25,000 餘圓の増加を示せり。此は受注減少、市價昂騰に因るものなり。工場能力の約 7 割の操業なり。

罐、塗料罐等に於ては幾分増産を見たり。

尙本期に於ける操業率は約 6 割なり。

2. 採算の概況 本期に於ける市價を前期に比すれば次の如し。

品 種 別	單 位	本 期	前 期	比較%
眞 鍮 管	100 kg	121.25	96.53	125.6%
眞 鍮 棒	同	68.24	20.62	112.6%

2. 採算の概況 本期に於ける市價は前期に比し大差なく原料に於て多少の變動ありたるの外特記すべものなし。

3. 生産品需要及販賣に関する概況 本品は大體注文に依る生産にして過剰生産なく販路は京阪神を主とし東京其他各地に有するも本期に於ては東京方面の需要は運賃關係等により著減したり。販賣方法は消費者との直接取引多く大阪產品との競争ありたり。

4. 勞力需給及原料、材料、燃料、動力取得の概況 本期に於ける勞働者數約 200 名内外にして前期に比し大差なし。

5. 經營上、技術上改良せられたる事項 特記すべきものなし。

#### IV. 尼崎市勢要覽 尼ヶ崎市役所 昭和9年版

上水道は多年の懸案たりしものにして總工費 623,654 圓(内 131,000 圓は國庫補助 496,000 圓は市債に依る)を投じて大正7年9月之を完成したり。爾來需要は激増して當初豫想の水量を超過し遂に大正10年には濾過池の増設を圖りて給水能力を増し、又鑿井3本をして補助水たらしめ需要に應じ來りしも水源地附近の工場化と共に永く取水場たらしむるの適當ならざるを認め偶隣村小田村に於て上水道敷設の計畫あり乃ち之と提携して擴張事業の調査を爲すこととし大正13年度4,000餘圓(尼崎市、小田村各2,000餘圓宛負擔)を計上し其調査を終へ之が實現方に付迂餘曲折をなし遂に市單獨實施に決したり。之より先大正7年上水道の敷設成れる當時工業界の活動目覺しきものあり。本市並に小田村に存在せる工場に給水の目的を以て工業用水道敷設の議起り本市に於て之が調査を擔任し敷設に必要な財源の調理に當りつつありし折柄、財界恐慌の爲一時中止の已むなきに至りしも工業都市として是非實現を要すべく喫緊の事業たるべきを以て14年7月水源を大阪柴島に設くるの議を決し諸般の手續を了して15年4月工事に着手、昭和2年4月完成したり。此工費870,000圓にして一晝夜の總取水石數は152,500石なり、内本市に必要水量は82,500石にして市外小田村麒麟麥酒、王子製紙、東洋紡績、大日本セルロイドの4會社工場に對しては水量70,000石の原水を分水するものとす、之に依り給水人口85,000に達する迄即ち昭和16年迄は今後に於ける斷水の困厄を免ることを得べし。又市内配水管の水壓頗る減退を醸し配給充分ならざるにより昭和3年より昭和5年に掛け總工費125,000圓を投じ14吋配水幹線一條増設を行ひ爾來市内に於ける動水壓の増大を著しく加ふると共に給水難たる個所も大に緩和するに至れり。

#### V. 尼崎商工名鑑 尼崎商工共和會 昭和7年9月發行

##### 商工業

1. 工業都市としてのこの地 工業都市としての尼崎市。

今尙村治に甘じ居るも人口40,000を突破して50,000

に垂んとする工業に恵まれたる小田村。

その小田村に比して稍遜色あるも、今や尼崎築港株式會社の工程の進捗に伴ふて投資の誘致放資の計畫等急進的發展を招徠するは今後多くの日子を費さずして刮目に値する底の大庄村。

由來この地一帯、水運陸輸の便、所謂天惠の地の理を得て天與の工場地帯たり、曩には兵庫縣營の尼崎築港の計畫既に第一期及第二期工事の竣工に依り完成したるに、今又淺野氏等の經營に依る大庄村丸島を包擁する一大計畫ありて着々進行し今後その發達と隆盛の新興的機運はこの地方をして更に大ならしめ、更により有望ならしむるものが多い。

叙上の如くこの地既に生産都市商工都市としてのその素養を充分に具備したるを以て從來の退嬰的慣習を打破し、因習的經濟觀念より脱却して生氣潑刺たる改造と建設に邁進し、一面大會社大工場を誘致し來りて大庄、尼崎に涉る。海岸線一帯と蓬川、庄下川、神崎川西岸の流域數百萬坪の空地に滿喫するの方策を講ぜねばならぬ。無論その投資と放資に對しては地價の釣上げを試みるが如きは一時的眼前の利慾に走る最も劣策にして郷土を愛する所以ではない、宜しく眼を大局に置き企業者の便を圖るを念とすべきである。

以上要するに當市都市計畫案の示す所に依れば大正元年に於て42工場、145,000坪の工場敷地面積は大正14年に於て一躍127工場、570,000坪の敷地面積に達し今その製産額を比較するに同年度に於て140,000噸に對し1,160,000噸、其の差1,000,000噸を越へ、金額に於て7,580,000圓に對し92,060,000圓となり激増10倍以上に及んでゐる。若しも都市計畫の決定と尼崎築港株式會社の工事完成とは今後20年を出でずして製産額3,000,000噸を豫想するも決して過算とは信じ難い。

この廣漠たる工場地帯數百萬坪の敷地は水運陸輸更に加ふるに神戸、大阪の輸出港を控へたる爲め工場經營の好適地として廣く之を推稱するに憚らない。

今や勸業行政に携はる當局は都土愛に燃ゆる人々と共に天時地利人和の三者を兼備して専ら優良生産品の獎勵保護、隠れたる發明家、考案家の保護に意を用ひ一面商工業指導機關の改善獎勵と其機能發揮に努め更に進んで築港完成と並び、河川整理を行ひ土地の廉價提供に依り投資及放資を歓迎せんとしてゐる。

VI. 西宮市産業要覽 西宮市役所 昭和10年3月發行

概説 本市の工業として第一に指を屈すべきは古來「灘の生一本」として其の芳醇を天下に謳はれた清酒である。其他の工場と雖も近時時代の進展と共に逐年長足の進歩をなしつつある。随つて其の種類も多岐多端に亘つてゐる。

工場数		工場数	
業種別	工場数	業種別	工場数
酒造業	128	底蓋製造業	1
清酒壺詰業	7	ゴム製造業	6
精米業	34	製綿業	1
製樽業	19	自動車修繕業	1
印刷業	3	澱粉製造業	1
味噌製造業	1	刻昆布製造業	1
製材業	2	メリヤス洋杖袋製造業	1
蠟燭製造業	2	瓶口金製造業	1
鐵工業	3	電球口金製造業	1
車製造業	1	電力發生業	1
手袋製造業	1	輪竹製造業	2
製壘業	1	紙器製造業	1
屑物消毒業	1	製罐業	1
綿絲(毛糸)紡績業	2	植物性油肥及石鹼製造業	1
メリヤス針製造業	2	蓄音器レコード製造業	1
製氷業	3	寒天製造業	2
醬油醸造業	1	辛子粉製造業	1
樂器製造業	1	其他	13
麥酒清涼飲料水製造業	4	計	254
燒酎製造業	1		

VII. 神戸商工情勢 神戸商工會議所編 昭和10年

工業概況 神戸港開港以來最も早く創設せられたる工業は、燐寸、輸出向屏風、竹器及茶箱、造船及製鍊機械等で明治23年に於ける市の工産總額僅に1,000,000圓に過ぎなかつたが、其の後對外貿易の發展に伴ひ貿易品の製産及市の膨脹に依る物資の需用漸く増大し、製造工業は逐年發達し來つたが、其の間日清、日露の兩戰役を経て異常なる勃興を呈した。殊に日露戰後の進展は顯著なるものがあつた。かくて明治40年に於ては工場數234、從業職工25,614人、工産總額42,128,000圓を計上するに至つた。爾來順調なる發展を告げ歐洲大戰勃發當初の大正3年に於ける工場數は851、從事職工36,526人、工産額94,000餘萬圓を示した。然るに歐洲大戰は我國産業に異常なる刺戟を與へ、殊に當神戸港に於ては輸出品の製造工業をはじめ造船鐵工其他各種工業何れも既設工場の擴張は勿論、新に設立された工場は恰も雨後の筍の如き觀があつた。試みに此の期間に於ける工場及職工増加の趨勢を見るに、

	工場數	職工數	工産價額 百圓
大正2年	851	36,526	80,620,250
同 3年	1,192	42,634	85,425,520
同 4年	1,196	44,960	118,381,397
同 5年	1,278	51,539	170,091,164

同 6年	1,487	61,898	312,648,677
同 7年	1,679	64,080	302,345,676
同 8年	2,236	67,717	378,393,777

を示し之を戰後大正8年と戰前の大正2年に比する時は、工場に於て1,385即ち2倍6分強、職工數にて31,000人即ち約2倍の増加にて實に隔世の感があつた。就中戰時中の刺戟を受け長足の發展を示せるものは機械器具工業にて造船は戰前18工場、職工10,000人に過ぎざりしもの戰後22工場、職工25,000餘に達し、金屬精鍊の如きは戰前皆無のもの新に4工場の創立を見た。又諸機械工場は戰前に比し100工場、諸器具(金屬)は36工場、金屬雜品は96工場何れも増加の顯著なるものである。又化學工業に於て最も著しきものは護謄工業にて戰前僅に2工場、職工47人に過ぎなかつたが大正8年には16工場、職工約2,800人に激増した。要するに戰時對外貿易の異常なる發展に連れ、諸事業共極度の繁忙を呈したのである。而して休戰條約成立後も尙情勢的乃至思惑的新工業の勃興歇まなかつた。然るに大正9年の初春急激なる財界反動に遭遇し各製品を通じ何れも1割乃至6割方の急落を演じ、金融業者の警戒は益々嚴を加へ茲に金融梗塞の状態を呈し、各工場齊しく金融難に陥つた。即ち原料買約に依る損失、製品の不賣等にて勢ひ休業の已むなきに至れる工場が續出した。かくて一般物價の低落と共に不景氣は愈々深刻化し、失業者の續出に依り勞資問題は益々八釜しくなつた。大正10年の市の大小工場數は3,397、之に從事する職工59,847人にて大正8年のそれに比せば、工場數に於て1,461の増加であるが、職工は7,870人の減少を告げた。殊に甚だしきは機械工業に於ける8,500人の減少である。又特筆すべきは大正10年7月に於ける川崎、三菱兩工場の勞働爭議である。其の參加せる職工30,000人を越え其の間に於ける關係工場は造船注文の手控へ、或は修繕船舶の入港減、出入人夫の困惑等より來る損失の莫大であつた許りでなく、一般市民の不安と迷惑は尠からざるものがあつた。爾來一般工業界別けても造船、鐵工業には整理を要するものがあつたにも不拘何れも設備の運用と職工維持に汲々たる觀があつた。越えて昭和2年に於ける未曾有の金融恐慌に際し端なくも窮狀を暴露せる川崎造船所の事業整理は單り同社のみならず直接間接下請負鐵工業にも甚大なる影響を及ぼした、それと同時に鈴木商店の破綻は之亦直系傍系の諸工場に累を及ぼし我神戸工業界に尠からざる動搖を來したのである。

翌昭和3年は前述の如く恐慌の後をうけて甚だしく不況に陥つたが、一面稀有の低金利は斯界の金融難緩和に寄與する所があつて翌4年に於ける工場、職工、工産額は一齊増加を示した。然るに濱口内閣に依つて斷行された金解禁に依つて事業界は再び活氣を失ひ翌5年以降は全く漸減歩調に轉じ、6年末には職工数は40,000臺に工産額は220,000,000圓臺に迄激減し、極度の不振に呻吟するに至つたが、同年末金輸出再禁止と共に爲替の激落、滿洲事變の突發等に依り一面護謨其の他輸出工業の活況を促し、他面軍需工業を旺盛にし政府のインフレーション政策又之に拍車をかくるに至り、翌8年には特に纖維工業又相當活氣を呈するに至つた。次で昨9年に於ける國際經濟會議の頓挫は各國の鎖國的經濟政策傾向を濃厚ならしめ、或は高率關稅其の他諸種の通商障壁が強化されたが、我が輸出品製造工業は其の間比較的活潑に推移し他面軍需工業、政府の匡救事業工業等依然旺盛である。昨秋空前の風水害は固より各方面に相當被害ありたるも爾來各工場共着々復興更生し、斯業は益々活況を呈するの現状である。

年 別	工場數	職工數 (男女共)	工 産 額 千円
昭和3年	758	53,522	273,707,136
同 4年 (以降官立を除く)	869	55,702	340,846,033
同 5年	899	50,917	278,442,349
同 6年	853	45,433	225,507,982
同 7年	858	48,227	245,292,369
同 8年	833	55,307	317,742,859

**VIII. 神戸港貿易統計** 兵庫縣内務部商工課 昭和8年6月

1. 最近5箇年間3港輸出額比較

(イ) 本表に於ける比較の欄に於て△印は神戸港の數字が

横濱港又は大阪港に比し當該數字だけ小額なるを示し、

(ロ) 無印は當該數字だけ神戸港の方が大なるを示す。

(ハ) 以下本調査の中に掲げたる入港船舶表、國別輸出入額表、類別輸出入額表に於ても同様の意味を示す。

年 次	神戸港	横濱港	大阪港	横濱港との比較	大阪港との比較
	千円	千円	千円	千円	千円
昭和3年	631,410	742,296	409,894	△ 110,886	221,516
同 4年	710,893	781,857	444,949	△ 79,964	256,944
同 5年	523,172	449,838	299,319	73,334	223,853
同 6年	409,011	370,662	218,914	38,349	190,097
同 7年	499,302	400,658	334,212	98,644	165,090

備考 (1) 別表比較欄に示す如く最近5箇年に於ける神戸港輸出額は大阪港を超過し居り又昭和5年以降は横濱港をも超過し居れり。而して此昭和5年以降神戸港が横濱港を超過せるは關東大震災以來生絲、絹織物、人絹織等が神戸より盛に輸出せられたるに因るものと見らる。

(2) 世界的不況と、物價低落の爲め3港とも最近數年來輸出減退を示し居れり。

(3) 昭和7年中は爲替安の爲め各港とも輸出著しく増加せり。

2. 最近5箇年間3港輸入額比較

年 次	神戸港	横濱港	大阪港	横濱港との比較	大阪港との比較
	千円	千円	千円	千円	千円
昭和3年	878,735	614,343	297,418	264,392	581,317
同 4年	882,331	582,460	317,316	299,871	565,015
同 5年	563,648	392,838	231,345	170,810	331,303
同 6年	457,742	305,637	215,836	152,105	241,906
同 7年	535,647	355,358	267,987	180,289	267,660

備考 (1) 別表に示すが如く輸入額に於いては各年とも神戸港は横濱、大阪兩港を超過し居れり。是れ神戸港は古くより棉花、羊毛、生ゴム、小麦等の如き原料品の輸入港として活躍し居るを察するに足るべし。

(2) 3港とも内地財界不況、國產愛用運動、爲替關係、物價低落等に基き最近數年間輸入價額減退を示せり。

(3) 但し昭和7年に於ては輸出増加に伴ひ原料品の需要増加せる爲め輸入も増加し居れり。

(4) 別表大阪港との比較の欄に於て神戸港の大阪港に對する超過額が近年減少の傾向有りて大阪港輸入旺盛の傾向を示し來れるは注目に値す。之れ從來神戸港より陸上げせられたる棉花等の原料品が直接大阪港より陸上げせらるる傾向生ぜるに因るものと料せらる。

3. 最近5箇年間3港輸出入合計額比較

年 次	神戸港	横濱港	大阪港	横濱港との比較	大阪港との比較
	千円	千円	千円	千円	千円
昭和3年	1,510,154	1,356,639	707,312	153,506	802,833
同 4年	1,584,224	1,364,317	762,265	219,907	821,959
同 5年	1,086,820	841,675	530,664	244,145	556,156
同 6年	866,753	676,299	434,750	190,454	432,003
同 7年	1,034,949	756,016	602,199	278,933	432,750

備考 (1) 前出輸出額表及輸入額表に示せる如く神戸港は輸出及輸入とも他の兩港に超過し居る爲め本表輸出入合計額表に於ても斷然他の2港を超過し本邦第1の優勢を示せり。

(2) 3港とも最近數年來の不況に基き輸出入合計額も減退の傾向を示せり。

(3) 但し昭和7年に於ては輸出増加し而して輸出の増加に伴ひ原料品の輸入も亦増加せるに因り輸出入合計額も増加を示し居れり。

(4) 最近5箇年間3港入港船舶比較

年 次	神戸港		横濱港		大阪港		横濱港との比較		大阪港との比較	
	隻數	噸數	隻數	噸數	隻數	噸數	隻數	噸數	隻數	噸數
昭和3年	4,214	15,509	2,653	10,281	2,039	5,474	1,561	5,228	2,175	10,035
同 4年	4,323	14,687	2,633	10,367	2,262	6,165	1,690	4,320	2,061	8,522
同 5年	4,507	15,877	2,539	10,390	2,254	6,316	1,968	5,487	2,253	9,561
同 6年	4,150	15,126	2,593	10,665	2,486	7,189	1,557	4,461	1,664	7,937
同 7年	4,142	15,163	2,422	10,087	2,387	7,001	1,720	5,076	1,755	8,162

備考 (1) 別表の如く神戸港は入港船舶に於ても斷然他の兩港を超過して貿易及海運の優位を示せり。

(2) 但し別表の中大阪港との比較欄に於て神戸港の大阪港に對する超過額が入港隻數及噸數とも近年減少の傾向を示し亦別表大阪港入港隻數及噸數の欄に於ても入港隻數及噸數とも増加し何れも大阪寄港船の増加を示せるは注目に値す。之れ近年大阪の輸出工業隆盛に伴ひ直接原料を大阪に陸上げし又直接大阪港より輸出品を積み取らんが爲め新に大阪に寄港するもの生ぜる爲めと察せらる。

**IX. 明石市勢一般** (第14回) 兵庫縣明石市役所 昭和7年

明石市は舊松平氏80,000石の城下にして播磨の東南部に位し、東は明石郡垂水町に接して神戸、大阪の兩大都市

に近く、北は同郡伊川谷村、玉津村に隣して三木町を控へ、西は同じく林崎村につゞき、加古川町、姫路市に通ず。

古來中國街道の要衝に當り、南は一葦帯水の明石海峡を隔て、淡路島と相對す。

附近の海岸は所謂明石浦にして須磨、舞子と共に白砂青松の名勝地として知らる。

産業には明石縮、明石焼あり、工業方面の進歩又見るべきもの尠からず。

市は東徑 135 度子午線通過し、本邦中央標準時の基點たり。

重要物産 重要物産は主として水産物、農産物、畜産物、工産物とす。

(工産物内譯) 昭和7年度調査

生産種目	金額 円	生産種目	金額 円
清酒	367,495	荷車	12,100
醬油	180,000	石粉	20,730
帆布	128,216	味噌	39,600
麵粉	15,000	印刷製本	57,200
製品	48,412	發動機	215,835
下駄草履	11,944	竹製品	34,175
齒架細工	25,930	木製品	196,685
製綿	35,690	清涼飲料水	52,700
氷	57,402	墨及墨床	34,390
綿絲其他	3,649,567	石子、鹼	42,800
陶器	66,040	菓子、餡	269,390
黒瓦	46,444	スコップ、ショベル	921,600
燐寸	789,316	ラヂオ器具	20,428
同軸木小函	176,400	皮革製品	26,500
謔製製品	120,556	割箸	10,000
鑄物	101,410	其他	563,860
鐵工諸機械	100,600	合計	8,438,415

X. 姫路 姫路商工會議所 昭和10年版

從來姫路市は播州經濟界の中心にして工業地として世に知らるる所なり、殊に歐洲戰亂勃發後、事業界の殷盛に伴ひ、市内に於ける各般の製造工業亦急激なる發達を遂げたり、その製産品種に就ては殆ど各種工業品を含み、その供

主要工産品 (單位 1,000 圓)

品目	價格 円	品目	價格 円
トッ プ	14,485	印刷製本	265
モスリ ン	5,095	醬油	348
綿絲	9,590	製綿物	197
絹絲、紬	4,264	染物	231
毛絲	9,695	石膏、白墨	236
生絲	2,873	金屬製品	443
製革	2,778	白下糖	250
燐寸	1,182	佛檀、佛具	249
綿織物	1,823	電球	1,490
菓子	1,071	足袋	146
清酒	606	賣藥	107
家具指物	384	紙管、紙面	78
製紐	1,476	革細工	130
フェルト	272	味噌、漬物	68
莫大小靴下	563	製粉	103

給地として單り内地製産市場のみならず海外貿易品としても相當製産力を増大するに至れり。

即ち本市工業の最も重きを爲すものを纖維業となし、皮革、菓子、燐寸、清酒これに亞ぐ。以上の他年額 10,000 圓以上に上るもののみを總括すれば本市の工産物は 1 個年産額は優に 60,000,000 圓を突破し、皮革、生絲、燐寸、莫大小、靴下、製紐、電球等は歐米諸國、支那、印度、南洋方面に輸出せらる。次に主要なる工業に就きその大略を記述すべし。

「紡績工業」明治 11 年 3 月濱本八治郎等の主唱に依り城北八代に姫路紡績所の設立を見たり、これ實に縣下に於ける紡績業の嚆矢にして、現在の福島紡績株式會社姫路工場は其の後身なり。其後日本毛織、日出紡、片倉製絲、○ト製絲、東洋紡の工場相前後して設立され、現に各工場の産額を合する時は年額數千萬圓を超へ、その販路は益々擴大して遠く海外に及び本市重要工業として目覺しく發展の氣運に趨きつつあり。

「金屬工業」往昔播磨國は鐵銅を産出し、従つて鑄工、刀匠に乏しからず、姫路城主羽柴秀吉が織田信長に献ぜる土産中の野里鍋は播磨鍋にして由來極めて古し。現今は銅像、梵鐘、長州風呂、農具、器械、工具を製出し、明珍火箸、明珍裁縫鏝は精巧雅致に富み、土産品として珍重せらる。

XI. 三木町勢要覽 兵庫縣美囊郡三木町役場 昭和10年8月刊行

三木町は美囊郡の西部に位し、南に三木山の國有林を控え北に美囊川貫流す。

面積 0.56 方里、市街は丘陵に倚り川に沿ふ。戸數 2,000 餘、人口 10,000 に垂んとす。

氣候溫和、地味肥沃なるも耕作面積狭少なれば古來住民は主として鐵工業に従事し打双物、大工道具、土木工具の製作盛にして其産額の多きと其鋭利なるに至りては其名聲廣く全國に聞ゆ。

當町は又郡の中樞にして元郡役所の所在地なり。現今縣立高等女學校、縣立金物試驗場、警察署等あり。

鐵道は播丹鐵道三木支線によりて加古川町に通ず、而して自動車便に至りては四通八達頗る便利なり。

明治以降の金物製造界を通覽するに、舊幕時代の工法を踏襲し原料和鐵、和鋼は因伯地方より仕入し鍛鍊を加へて精選し、燃料は附近に産する木炭を用ひ其品質の優秀且鋭利なる事諸國に響き名聲噴々たり。

明治13, 4年頃より洋鐵、洋鋼を用ひ板鋸、スタル鋸など此間に分る。

焼入などに研究を缺き一時聲價を落したる事ありしが當業者の覺醒はやがて信用を恢復せり。

偶々明治36年日露の役起り、姫路聯隊より圓匙、方匙の軍需注文あり、三木金物商會(現在の地球ライオン・シヨベル株式會社)を創設し製造を始めたり。大正6年には露國軍需品シヨベル100,000挺の大量注文を引受け完成す。

歐亂勃發後好況を迎へ、需要増加し其餘勢中心とする大正12年には關東大震災復興大事業に際會し金物界更に活氣を呈し前古未聞の大發展をなしたる事は三木町史に特筆すべき所なり。

昭和9年度工業産物價額

品目	價額 円	品目	價額 円
金算	1,831,585	紙製品	9,405
物盤	5,510	木製品	7,600
酒精	122,817	製氷	4,300
糖蜜	36,425	摺粗	—
菓油	21,465	其他	8,525
飲料	1,575	合計	2,049,207

昭和9年度金物價物

品目	價額 円	品目	價額 円
鋸	975,000	鍍	23,000
鉋	507,000	洋刀	45,000
鑿	513,000	小刀	265,000
棒	265,000	庖丁	32,000
鎌	585,000	シヨベル、スコップ	195,000
鋏	28,000	其他	35,000
剃刀	65,000	合計	5,128,000

附 常時職工50人以上を使用する工場 (いろは順)

(昭和9年10月1日現在により調査せるものなり)

工場名	工場所在地	主なる製品の名稱	職工數		
			男	女	計
株式會社石原造船所	神戸市湊東區東川崎町3丁目4	造船鐵工	70	—	70
株式會社石崎商店	武庫郡御影東明字五番196ノ1	金屬釘、プレス釘	60	83	143
播磨ヘルド製造所	神戸市葦合區南本町1丁目53	針金	16	49	65
株式會社播磨造船所	赤穂郡相生町	造船職工	2,170	29	2,199
株式會社阪神鐵工所鑄造工場	神戸市林田區細田町4丁目3	原動機	67	—	67
阪神電氣鐵道株式會社 西宮車輛修繕工場	尻崎市北城内116	軌道車輛	150	—	150
阪神電氣鐵道株式會社 尼崎車庫	尼崎市北城内116	同	56	—	56
阪神急行電鐵株式會社 西宮車輛工場	武庫郡瓦木村高木字河原194ノ3	同	101	—	101
日本發動機株式會社	神戸市林田區金平町2丁目35	發動機	240	1	241
日本工具製作株式會社	明石市東王子2丁目591ノ1	各種鐵器、農具	194	22	216
日本エレベーター株式會社	川邊郡小田村潮江字東大字18ノ4	エレベーター	130	5	135
日本エヤーブレーキ株式會社	神戸市葦合區脇濱海岸通5	空氣制動機車 ワイヤー鐵條網	183	1	184
日本鐵線鋼索株式會社	武庫郡大庄村道意字十間割227	ワイヤー鐵條網	468	40	508
日本電器製造株式會社	明石市東王子町2丁目558ノ1	電氣配線器具	108	36	144
日本電球株式會社	姫路市大藏前町2	各種電球	78	87	165
日本電球株式會社 硝子工場	姫路市南畝町465	電球硝子	74	3	77
日本亞鉛鍍株式會社	武庫郡大庄村地先埋立地	亞鉛引鐵板	127	—	127
合名會社日本シャフト製工所	尼崎市東灘波字八幡802	シャフト 筋入ローラー	64	2	66
日本精工株式會社 神崎工場	川邊郡小田村西川字野元1	ボールベアリング	47	7	54
株式會社日本スピンドル製造所	川邊郡小田村汐江字ソウケ3	紡績用紡錘	505	68	573
株式會社ニツケル・エンド・ ライオンズ商會 新在家鐵工所	神戸市灘區新在家字走出125	造船鐵工	221	3	224
紡機製造株式會社	神戸市葦合區脇濱町3丁目2055	紡絲人絹製造機	330	46	376
株式會社東洋螺旋鋸製造所	神戸市灘區都通1丁目59ノ1	眞鍮鐵螺旋鋸	35	34	69
株式會社東洋電機具製作所	明石市船町104	電氣器具	96	28	124
東亞電球株式會社	川邊郡小田村梶ヶ島小字正ノ兎88	電球	17	40	57
株式會社東京ロール製作所 尼崎工場	尼崎市西高洲町31	各種ロール	218	—	218
富永鋼業株式會社 尼崎工場	川邊郡小田村杭瀬新田22	亞鉛鍍金、丸釘、鋼板	585	2	587
千代田製作所	神戸市葦合區國香通2丁目2	ハブ、土除	54	3	57
地球ライオンシヨベル株式會社	美囊郡三木町福井687	農具土工具	132	12	144
大井鐵工場	加古郡別府町1254	諸機械部分品	48	2	50

大阪製鉄株式会社製鉄工場	武庫郡大庄村中濱字北東切 55	製板	289	—	289
金井トラベラー製造所	武庫郡大庄村東大島字川田 135	トラベラー	124	202	326
株式会社カネキ自動車商會	神戸市林田區北町 2丁目 5	自動車	71	—	71
兼重式製鋼所	川邊郡小田村西長州	可鍛鑄鐵	54	15	69
株式会社川西機械製作所	神戸市林田區和田山通 1丁目 5	紡織機械其他	472	42	514
川西航空機株式会社	武庫郡鳴尾字大東 1	航空機	1,020	22	1,042
河部農具製作所	飾磨郡余部村青山 1,000	農工具	129	5	134
川勝製罐工場	神戸市林田區西尻池 1丁目 8	罐	70	75	145
株式会社川崎造船所艦船工場	神戸市湊東區東川崎町 2丁目 14	造船鐵工	6,831	174	7,005
株式会社川崎造船所製鉄工場	神戸市葺合區脇濱町 3丁目 2949	鋼鉄	5,106	7	5,113
株式会社川崎造船所飛行機工場	神戸市林田區東尻池大竹 2	航空機	1,789	14	1,803
株式会社川崎造船所飛行機分工場	神戸市林田區明治通 2丁目 6	電氣飛行機用部分品	58	6	64
川崎車輛株式会社	神戸市林田區和田山通 1丁目 6	鐵工、車輛	3,293	38	3,331
四ッ井工作所	神戸市湊東區東川崎町 4丁目	車輛用部分品	63	—	63
大日電線株式会社	尼崎市東向島西之町 8	被覆電線、裸銅鐵線	288	139	427
株式会社大正造船鐵工所	神戸市兵庫區東出町 3丁目 208	造船鐵工	87	—	87
株式会社高尾鐵工所	神戸市葺合區吾妻通 3丁目 3	鐵工業	292	—	292
多木農工具株式会社	加古郡別府町新野邊 1,400	農工具	91	6	97
合名會社中田正鐵工所	神戸市葺合區脇濱町 3丁目 7	諸機械	126	—	126
中山製釘工場	尼崎市西松島 6	丸釘	81	3	84
ラジジングサン石油株式会社	神戸市林田區浪松町 8丁目 1ノ1	礦物油	95	16	111
野田油槽所	川邊郡伊丹町字燒野 1061	紡機附屬品	205	67	272
株式会社梅田製鋼所伊丹工場	尼崎市西向島町 64	鐵管鑄造	844	—	844
株式会社久保田鐵工所尼崎工場	神戸市兵庫區出在家町 151	内燃機關	68	—	68
合資會社前田鐵工所	尼崎市東向島西之町 8	蓄電池	102	—	102
古川電氣工業株式会社	尼崎市東向島東之町 44	銅、眞鍮、アルミ管棒	202	15	217
大阪電池製作所	神戸市林田區神樂町 3丁目 89	諸機械	53	—	53
古川電氣工業株式会社尼崎仲銅所	神戸市兵庫區須佐通 8丁目 1	内燃機關	145	2	147
藤原鐵工所	神戸市林田區川西通 1丁目 13	諸機械部分品	65	—	65
株式会社神戸發動機製造所	神戸市林田區御藏通 4丁目 1	鑄造	113	5	118
合資會社神戸工作所	神戸市林田區五番町 6丁目 8	鑄造	88	4	92
合資會社神戸鑄鐵所第一工場	神戸市葺合區脇濱町 1丁目 31	製鐵製鋼	3,689	16	3,705
合資會社神戸鑄鐵所第二工場	神戸市林田區東尻池町 3丁目 1	軌道車輛	160	—	160
株式会社神戸製鋼所	武庫郡精道村打出古敷 9	安全刺刀替刃	8	62	70
神戸市電氣局長田工場	神戸市林田區大池町 4丁目 2	精密螺子兵器部分品	215	17	231
エームモーニング	神戸市兵庫區西出町 322	造船鐵工	53	—	53
フレート製作所	武庫郡大庄村中濱新田字中東切 56	金屬品	437	—	437
帝國精密工業株式会社	尼崎市西高洲町 48	釘類	230	16	246
荒田造船所	揖保郡神部村山津屋 48ノ3	農業用機械	183	5	191
株式会社尼崎製鋼所	神戸市林田區四番町 6丁目 8	内燃機關	175	—	175
合資會社尼崎製釘所	飾磨郡飾磨町中島一文字 3007	製鋼	96	—	96
合資會社三徳萬石製製所	神戸市林田區高松町 14	鐵工鑄造	55	—	55
株式会社山陽工作所	明石市上水町 1,357	内燃機關	165	—	165
山陽製鋼所	明石郡林崎村船上 95ノ3	原動機	76	—	76
北村鐵工鑄造所	神戸市兵庫區和田崎町 3丁目	造船鐵工	4,890	28	4,918
木下鐵工所	神戸市兵庫區和田崎町 3丁目	電氣機械器具	1,176	133	1,309
きしろ發動機株式会社第一工場	赤穂郡上郡町 212	農業用機械	72	—	72
三菱重工業株式会社神戸造船所	神戸市林田區濱添通 3丁目 7	自轉車用リム	85	6	91
三菱電機株式会社神戸製作所	神戸市兵庫區西出町 329	機械	149	—	149
柴田農具製造工場	武庫郡鳴尾村小松字東臺 7	寫眞機械	92	—	92
新在家自轉車製造株式会社	尼崎市東向島西之町 28	鋼管壓縮瓦斯容器	1,321	23	1,344
兵庫リム第二工場					
株式会社東出鐵工所					
モルタ合資會社武庫川工場					
住友伸銅鋼管株式会社					

本邦内地工業分布の趨勢

商工省工務局調査(昭和9年8月) (合計のみ改算)

工業開始年別 職工數別 工場所在地別		大正13年より昭和3年迄					昭和4年より同7年迄					合計					同上100分率				
		5人以上 30人未満	30人以上 100人未満	100人以上 200人未満	200人以上	計	5人以上 30人未満	30人以上 100人未満	100人以上 200人未満	200人以上	計	5人以上 30人未満	30人以上 100人未満	100人以上 200人未満	200人以上	計	5人以上 30人未満	30人以上 100人未満	100人以上 200人未満	200人以上	計
全 國	總數	11,427	1,186	192	142	12,947	8,211	1,028	184	127	9,550	19,638	2,214	376	269	22,497	100%	100%	100%	100%	100%
	市部	6,322	681	78	63	7,144	4,413	532	66	38	5,049	10,735	1,213	144	101	12,193	54.7	54.8	38.3	37.5	54.2
	郡部	5,105	505	114	79	5,803	3,798	496	118	89	4,501	8,903	1,001	232	168	10,304	45.3	45.2	61.7	62.5	45.8
兵 庫 縣	兵庫市	597	79	17	11	704	479	76	11	8	574	1,076	155	28	19	1,278	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	神戸市	169	44	11	5	229	141	33	7	3	184	310	77	18	8	413	28.8	49.7	64.3	42.1	32.3
	姫路市	102	33	10	1	146	106	25	4	2	137	208	58	14	3	283	19.3	37.4	50.0	15.8	22.1
	尼崎市	17	1	—	—	18	7	—	—	—	7	24	1	—	—	25	2.2	0.6	0	0	2.0
	明石市	20	2	—	2	24	18	3	1	—	22	38	5	1	2	46	3.5	3.2	3.6	10.5	3.6
	西宮市	8	4	1	1	14	1	3	1	—	5	9	7	2	1	19	0.8	4.5	7.1	5.3	1.5
	郡部	22	4	—	1	27	9	2	1	1	13	31	6	1	2	40	2.9	3.9	3.6	10.5	3.1
合計	428	35	6	6	475	338	43	4	5	390	766	78	10	11	865	71.2	50.3	35.7	57.9	67.7	

○印は職工數不詳のもの

神戸市及其附近

